



2022年度、「教会学校」は「子どもの礼拝(CS)」へ変わります

これまで、幼児から小学生、中高生のみなさんへの教会プログラムを「教会学校」と称していました。これは欧米から伝わった「Church School (CS)」を訳した言葉で、多くの教会で使われています。名古屋新生教会では、教会は、教育機関としての学校とは違う、みなさんにとって“自分の居場所・神さまとの出会いの場”であってほしいとの思いから、「子どもの礼拝」(Children's Service : CS)へと名称を変更します。また、これに伴って各礼拝などは下記のとおりとします。

✦ ティーンズ礼拝 (小学校4年生～中学生以上) 9:00～9:30

…ティーンズ (Teen's) つまり小学校4年生～中学生以上まで10代のための礼拝です。
(小学校4年生は10歳になる前から出席していいですよ！)

礼拝の中で「献金」があります。これは私たちが神さまからいただいた恵みに感謝を捧げるものです。金額に決まりはなく、自分が何かをちょっと我慢するくらいの金額(お菓子とか)です。

✦ 分級 (小学生/中学生以上) 9:35～9:55

…礼拝での内容の振り返りや行事に関するプログラムなど、小学生の集まり・中学生以上の集まり、それぞれに分かれます。プログラムを特に用意せず、出席したみなさんが自由に過ごす「プレイ (play, pray)・タイム」の時間とすることもあります。

✦ こどもれいはい (幼児～小学校3年生) 10:00～10:20

…幼児から小学校低学年のみなさんに向けて、やさしく聖書のお話しをします。

今月の礼拝 単元20: 十字架、復活、昇天

月日	週 題	聖書箇所	ティーンズ礼拝 (小学校4年生以上) 9:00～9:30	分級 (小学生/中学生以上) 9:35～9:55	こどもれいはい (幼児～小3) 10:00～10:20
4月3日	弟子の足を洗う	ヨハネ福音書 13:1-20	武岡 基	(小/中～、合同) 新学期、はじめまして イースターに向けて	武岡路実
4月10日	十字架	マタイ福音書 27:27-61	武岡路実	(小/中～、合同) 新学期、始まり始まり～ イースターに向けて	安達いづみ
4月17日 イースター	イエスの復活	マタイ福音書 27:62-28:15	林 小夜子	たまご探し	武岡 基
4月24日	宣教命令	マタイ 28:16-20 使徒 1:3-14	安達正樹牧師	(小/中～、合同) 新学期、始まり始まり2 イースターを過ぎて	安達正樹牧師

イースター礼拝 4月17日(日) イエスさまの復活をお祝いしましょう。

ティーンズ礼拝 (小4以上) 9:00～

「たまご探し」(幼児～大人) 9:35～

こどもれいはい (幼児～小3) 10:00～



教会学校に通っているみなさんのための催しとします。

今月の聖句 (2021年度教会聖句 教会総会で決まり次第2022年度教会聖句とします)

思い煩いは、何もかも神にお任せなさい。

神が、あなたがたのことを心に掛けてくださるからです。(ペトロ I 5:7)

今月のさんびか

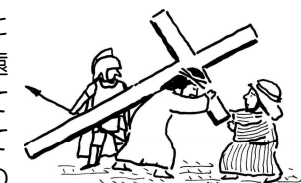
こどもさんびか 85 (イエスのになったじゅうじかは)

讃美歌21…305

イースターは、十字架にかけられて亡くなったイエスさまが、その3日目に復活したことを祝う「復活日・復活祭」です。クリスマスは12月25日と決まっていますが、このイースターは日にちが決まっていない移動祝日で、今年は4月17日(日)です。日にちがどのように決められるかというと、「春分の日を過ぎて、最初の満月の次の日曜日」ということです。早い年では3月22日、遅い年では4月25日、この間にある日曜日のいずれかにあたります。

イースターは、イエスさまの復活を祝う日です。それと共に、イースターを迎えるまでの期間(レント)は教会に通っている私たちは、イエスさまの十字架の意味を心に刻むことを大切にしています。神さまに背いた私たち人間を、神さまが滅ぼそうとされた身代わりとして、イエスさまは十字架で亡くなったのです。約2000年前の昔話、遠く離れた外国での話、ではあるけれども、今の私たち一人ひとりにとって関係のない話ではなく、私たち一人ひとりもイエスさまの十字架によって生かされているのです。イエスさまの復活・イースターのお祝いは、このイエスさまの十字架を思ってこそ、本当のお祝いとなるのです。イースターを迎えるにあたり、それまでの期間は、“私にとっての”「イエスさまの十字架」の意味を考える時間としましょう。

今月のさんびかは、3月に続き「イエスのになったじゅうじかは」です。3月は1～3節を歌いましたので、4月は4～6節を歌います。5節では「世は はめつへと追い立てる」とあり、このことに対して、何が本当に大切なことで、どのように行動するべきなのかを、神さまは私たち一人ひとりに問うています。今の社会・世の中にもあてはまるものがあるのではないでしょうか。



おたんじょうびおめでとう

4月生まれのお友だち

「礼拝」ってなあに？

「礼拝」って何だろう？教会に行ったことのない人、通い始めたばかりの人にとっては大きな疑問ではないでしょうか。教会での礼拝は、一般の日本人が持っている「宗教儀礼としての礼拝」のイメージとはかなり違いがあります。では何が違うのでしょうか。まず、教会での礼拝は、私たちが一方的に神さまを崇め、神さまを賛美する場ではありません。礼拝は神さまの働きかけによって私たちが集められるところから始まります。教会へ行くというのは自分の意思ですが、神さまがいつも呼びかけてくださるのです。これが「前奏」「招詞(招きの言葉)」です。そして、私たちからの感謝の応答が「讃美歌」や「祈り」という形式で行われます。つまり礼拝は、全体が神さまと私たちとの対話によって進められるのです。礼拝の中心になるのが「聖書」の言葉であり、その説き明かしとしての「説教」「お話」です。「説教」「お話」は神さまからの言葉です。語る人を神さまが用いて、その人を通して神さまが語っておられるのです。ですから、語る人が誰であっても、語り方がどんなであっても、それが重要なことではなく、神さまからの言葉として聞くことが大切なのです。礼拝での「献金」は神さまからの恵みに対する感謝の応答です。募金とは趣旨が異なります。礼拝の最後には、神さまに押し出されて日常生活へと遣わされて出ていく「祝福(祝祷)」「後奏」で終わるのです。